

- 北海道（主として道北・道東）の広範な地域で、高度な医療を提供し地域医療を支える最後の砦としての役割・機能を担う。
- 高齢化・過疎化が進む広大な北海道の医療を支える医療人を育成する教育病院としての役割・機能を安定的に担う。

現状・課題

- 経営難を克服するために様々な対策を講じた結果、病床稼働率の大幅な上昇を達成したが、看護師をはじめとする多くの職員の労働負荷が増大し、今後は安定的な経営結果を達成しつつ持続可能な労働環境への構造転換が必要。
- 旭川市、上川中部圏域、道北・道東の医療を本院と共に支えてきた旭川市基幹病院（旭川医療センター、旭川厚生病院、旭川赤十字病院、市立旭川病院）について、昨今の経営状態の悪化による医療機器更新の抑制や特定診療科の医師及びメディカルスタッフの充足見通しによる診療科の縮小・閉鎖予定など地域医療体制のバランスが崩れつつあり、行政機関と共に基幹病院との機能分担等の連携を促進する運営方針・体制への構造転換が必要。
- より広域の視点では、北海道の実情に応じた医療機関の役割分担の明確化や再編・集約を進めるため、地域医療計画の安定的推進に協力しつつ、特に北海道庁及びその総合出先機関、北海道3大学病院（本院、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院）で総括的・横断的な協議等の場を持つことが必要。

構造改革・今次事業の取組

- これまでも積極的に導入を進めてきたDXについて、医師・看護師の日常診療業務における労働負荷軽減を着実に達成できるよう、更なる推進を図る。
- 既設の「内科合同会議」に加え「外科合同会議」を発足させ、病院長の医師派遣に関するマネジメント向上等を図る。
- 北海道庁等の関係幹部との総括的・横断的な協議等の場を設置開催するため、北海道3大学病院協同で北海道庁と連携しながら準備を進めている。
- 旭川市「旭川市地域医療体制に関する検討会」において、基幹病院の機能分化・連携・再編の方向性や内容を打ち出し議論を先導し、率先垂範を実践。
- 高度医療機器導入や医師派遣に関する構造改革による研究用コホートの創出や拡張、研究成果創出の基盤形成。

機能強化の取組

- ◎労働生産性向上のための更なるDX化による労働負担の軽減、特に医師等に係る教育・研究時間の確保
- 生成AI導入による各種サマリ作成等の業務負担軽減。
- DPCコーディング支援AI導入でDPCコード決定の迅速化。
- 病床管理ツール導入でベッド状況の可視化・運用効率化。
- 血管造影室に係る管理システム導入で稼働状況の可視化。

地域との連携強化の取組

- ◎基幹病院の機能分担等を通じた放射線治療・血管内治療の機器・人材に係る地域最適化
- 限られた当該分野の専門医リソース及び高額な医療機器を分散させず、本院に集中させ、治療成績向上と安全性確保を両立。
- 核医学治療及び放射線治療に係る良質な教育環境を医学生・研修医・メディカルスタッフに提供し高度医療人材育成を実施。
- 血管治療に係る良質な治療・学習環境を若手医師・研修医に提供し、専門医育成を実施。

達成後の姿

- 更なるDX化の推進により、労働生産性が向上し、特に現場を中心とする労働負荷の軽減、医師等の教育・研究時間の増加による臨床研究論文の増加等各種実績向上、大学院進学機会増加。
- 北海道庁等との協議等の場の設置で、広域医療の検討を含む施策への大学病院の更なる貢献。
- 旭川市基幹病院における機能分担等について、放射線治療・血管内治療の機器・人材を端緒として、連携・再編へ向けた動きを一層進め、道北・道東の医療提供体制の安定的な維持を実現。
- 不足の放射線治療医・血管内治療医等について質の高い医師・高度医療人材の輩出。

